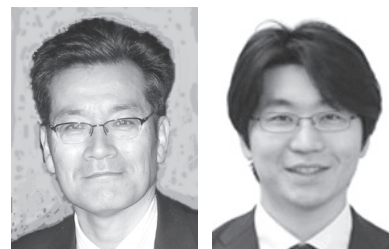


特集序言

「薬学と健康科学」の企画と編集にあたって

大塚 誠・竹内 一成

(武蔵野大学・東京理科大学)



疾病治療においては健康と疾病はしばしば別のことであるかのように捉えがちですが、近年、両者は連続したものであるとの考え方が広がっています。「セルフメディケーション」という言葉が使われるようになって久しいですが、世界保健機関は「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義しています。疾病と診断される前の軽微な不調を個人の判断で治療することが推奨される時代において、入手が容易で安全な医薬品および薬学的な知見に基づいた高機能な食品類の重要性は更に増大していくものと考えられます。これらの開発には、薬学領域で盛んに研究されている Drug Delivery System (DDS) の利用が有用です。適切な DDS により、有用性の向上と副作用の低減が見込まれます。そこで本稿では、オレオナノサイエンス部会シンポジウム(日本油化学会第 58 回年会において開催)を基に、DDS を用いた「薬学と健康科学」について、学術的観点からご執筆頂きました。

大阪大学の石本憲司先生、中川晋作先生には、機能性食品の開発における β -カロテンをモデル化合物とした非晶質固体分散体について解説して頂きました。日本大学の鈴木豊史先生、鈴木直人先生、金沢貴憲先生には、近年注目されている薬物の経鼻投与に関して、ナノシステムの役割を中心に解説して頂きました。徳島大学の石田竜弘先生には、リポソームを用いた DDS 開発の現状と課題に関して概説して頂きました。

執筆頂いた先生方からは最新的话题をご提供頂き、薬学と健康科学を学術的に捉えた特集に仕上がりました。なお、次号掲載の予定ですが、城西大学の徳留嘉寛先生に、水溶性高分子の皮膚浸透性についてご紹介頂ける予定です。おわりに、ご多忙の中、本特集のご執筆にご理解、ご協力頂きました先生方に深謝申し上げます。